

Case 12-2006: A 37-Year-Old Man with Hemoptysis and a Pulmonary Infiltrate

(Volume 354: 1729-1737)

【Problem list】

1. 盗汗

6 週間前より一週間に二回見られた。Levofloxacin と metronidazole 14 日コース後も頻度、性質共に変わらなかった。

2. 喀血

6 日前に朝の咳に少量血が混じっていることに気付いた。

3. 咳

10 年間にわたり朝見られる。

4. 胸部 CT

3 年前に撮られた胸部 CT は正常。今回撮られた胸部 CT にて右下後葉部に 3.8cm × 2.3cm の不透過部があり、空気気管支像を含んでおり、癌の可能性がある。Metronidazole と levofloxacin 投与により、受診 5 日後には 1.5cm × 2.4cm に縮小した。3 週間後の CT でも不透過部は縮小し続けている。3 ヶ月後には右下後葉部の不透過部は解消したが、直径 7 mm の二つの結節が新たに出現した。右肺下葉の外側肺底区(S9)と右肺門下の区気管支に接してある。また、肺門下部に気管支血管構造に沿ってまだらに実質に不透過部があり、気管支周囲の肥厚を少し伴っている。所見は反復性気管支肺炎、特に誤嚥性気管支炎を示唆している。

5. 血糖検査

133mg/dl と軽度高値。